

主体的に学習に取り組む生徒の育成
～ 言語活動の充実を通して ～

I. 研究の内容

1 言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力等を育む授業や活動を創造する研究。

表現力の育成を図るための手立てを踏まえた活動づくり。

- 思考力・判断力・表現力等の育成を目指した授業の展開。
- 各教科の授業，特に単元の導入において，指導形態・指導方法・教材教具等の工夫。
- 思考力・判断力・表現力等を育むための授業として，授業実践を行い，成果と課題を検証する。
- 講師を招いての授業研究の実施。

2 確かな学力向上を目指し，基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を図るための学習習慣の確立。（家庭学習）

学級・学年において，家庭学習を中心に生徒の学習習慣の確立を促すための工夫をする。

- 生活・学習実態調査を実施し，生徒の家庭学習等の実態を把握する。
- 学年ごと課題を把握し，解決に向けて家庭学習に取り組む。
- 定期テスト取り組み期間において，個々に学習計画を作成させ，計画と目標達成のための取り組みをはかる。
- 状況に応じた個への支援。

3 学習効果を高める生活習慣，学習規律の確立。

- 学習規律の形成を図るための学級指導を実施。
- 学習効果を高める基盤となる学習習慣や生活習慣を見直し，挨拶，授業規律，清掃活動，給食指導を展開し，学習の基盤となる心を育む。
- 学習環境を整える。
- H-Q Uを実施し，その結果を分析，検証することにより，学級づくりや授業づくりに生かしていく。

II. 成果と課題

1 成果

- 講師を招聘し、研究授業を行い、指導・助言を得る中で、研究の成果や課題を共有することが出来た。
- 授業の中で話し合い活動を意図的に仕組むことにより、自分の考えをまとめ、伝えようとすることで、学習への意欲も高まったように思われる。
- 生活・学習調査やQ Uアンケートを実施し、まず生徒の実態把握から研究を行ったのが良かった。
- H-Q Uを行う事で、生徒の実態が把握できた。2回行うことで、変容がわかり、今後の指導に活かしていった。
- 生活アンケートを行うことで、学習時間や睡眠時間等、生徒の実態がわかり、指導に活かすことが出来た。また、毎年ほぼ同じ内容なので、比較できることも良い。
- 各学年で家庭学習の定着をはかるための取り組みがなされ、実態に合わせた取り組みであり、効果的だったと思う。
- 今年度の成果を生かして、来年度この取り組みを継続して、家庭学習がさらに日常化できると良い。
- 主体的に取り組む生徒の育成というテーマは学校課題にふさわしいテーマであった。副題の言語活動の充実を通しては具体的な手法が提示され、取り組みやすかった。

2 課題

- 家庭学習の取り組みは①全校統一した取り組み②仕組み、その成果を見る取り組みもあるのではないか。
- 言語活動は継続的な取り組みが必要である。また、言語活動を通してどのような力を育てたいのか、共通理解が必要である。
- H-Q U、生活アンケートの分析結果を授業や学活等で活用し、学力向上や生活改善につなげたい。
- 言語活動について、全学年共通のものを出来るのがよいが、学年のレベルに合わせた段階でやっていくことが、現状では最善の策であると思う。1年ではこの内容、2年ではこの内容といったものを決めて、三年計画でやるのも良い。
- 言語活動の充実は大変重要であるが、あくまでツールとして使用するという視点を忘れてはならない。言語活動に親しみ、興味関心を持たせるため、読書の意義は大きい。読書活動をさらに推進し、言語を大切に作る感性を持たせたい。

III 成果物

理科指導案、言語活動一人一実践、生活アンケート分析結果、H-Q U分析結果、家庭学習五教科課題、課題確認テスト、定期試験取組表

(研究主任 武井 晴彦)